

平成 28 年度 事 業 計 画 書
平成 28 年度 収 支 予 算 書

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

I 平成 28 年度事業計画書

1	はじめに	1
2	調査研究事業	2
	(1) 共同研究事業	
	(2) 個別研究事業	
	(3) 学術研究会事業	
	① 早期胃癌研究会	
	② 大腸研究会	
3	研修指導事業	12
	(1) 国内医師に対する研修	
	(2) 放射線技師に対する研修	
	(3) 平成消化器懇話会の開催	
4	普及啓発事業	13
5	検診・診療事業	14
6	法人運営	15

II 平成 28 年度収支予算書 17

I 平成 28 年度事業計画書

1 はじめに

当協会は、昭和 42 年 9 月の発足以来、主に早期胃がんの学術的及び診断技術的研究を行い、あわせてその普及に努めてきたところである。

今後とも、当協会の歴史、伝統及び業績を守りつつ、時代をリードする消化器がんを中心とした検診・診療施設、公益財団法人としての公共的責任と社会的役割を果たしていかなければならない。

当協会の使命は、生活習慣病を中心とした検診及び治療、早期胃がんをはじめとする消化器がんの学術的及び診断技術的な研究、並びに医学界及び一般社会に対する研修及び普及啓発活動を行い、もって都民のがん対策及び健康増進に寄与することである。そのため、(1)早期胃がんを中心とした消化器がんに関する診断方法及び疾病動態の研究、(2)学会及び研究会等への財政的・技術的支援、(3)医師等を対象とする消化器がん診断技術の専門的研修、(4)消化器疾患に関する健康相談及び啓発、(5)生活習慣病の予防及び早期発見に必要な各種検診並びに必要な治療を事業の柱とする。

平成 28 年度は、疾病構造の変化や社会ニーズの動向を踏まえ、「総合的ながんリスク検診」を核とした新たな検診体制を構築するとともに、検査需要が高まっている内視鏡検査を拡充する。

これらのことにより、安定的な財団運営を可能にするとともに、当協会の公共的責任と社会的役割を果たせるように努める。

2 調査研究事業

調査研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業と職員が個別に研究テーマを設定して行う個別研究事業、そして症例検討会等を開催し支援する学術検討会事業がある。

(1) 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 28 年度の研究テーマは、平成 27 年からの継続のものが 4 テーマ、今年度から新たに研究するものが 2 テーマの合計 6 テーマであり、それぞれの研究内容は、次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において有用性、独創性、実現性等を評価し、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

① より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続） （研究本部がんリスク検診研究室）

本研究は、日本人の疾病構造の変化に合わせた新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討し、検診を受託している企業などに提案することを目的とする。

平成 24、25 年度は、論文などで報告された資料を参考にし、当協会独自の「がんリスク検診」を提案した。平成 26 年度は胃に関してはピロリ感染の有無のみでリスクを評価し、ピロリ陽性者には保険診療で除菌治療を行う独自の胃がんリスク検診を作った。さらに、肺がんに関しては喫煙指数と禁煙期間から、食道がんは飲酒と喫煙指数から高リスク者を 10% 程度に絞り込む試案を作った。

平成 27 年度は、複合リスク検診の試行について企業担当者との相談を行ったが実現できず、胃がんリスク検診を開始した一企業において検診後の除菌治療のためのピロリ外来を始めたが、研究面での新しい成果は得られなかった。

平成 28 年度も引き続き当協会が進める複合リスク検診の実現を目指す。

② 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続） （研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。

内臓脂肪の中央値は 84.65 cm²で、100 mm²以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。

平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 mm²以上では 76%がメタボ判定であった。

平成 27 年度は、内臓脂肪面積を測定した特定保健指導対象者 24 名の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との相関をみとめた。

平成 28 年度も同様の検討を続け、特定保健指導の効果を検討する。

③ 検診胃 X 線検査における造影剤少量化の検討（継続）

（研究本部画像病理研究室）

日本消化器がん検診学会の新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版（2011 年）によると、検診胃 X 線検査で使用する造影剤は、濃度 180～220w/v%の高濃度低粘性粉末バリウム 120～150ml を使用するとあるが、使用量の上限と下限には 30ml の幅がある。平成 24 年度はバリウム量 120ml と 150ml について検討して 150ml を、平成 25 年度はバリウム量 130ml と 140ml について検討して 140ml を使用したほうが横胃、鉤状胃、下垂胃のいずれも良好な画像が得られた。

平成 27 年度は、120～150ml の間の造影剤量でどこまで減量可能か胃型別に検討する目的で、120ml と 150ml の造影効果の比較した結果、鉤状胃・下垂胃においては、胃体部及び幽門部では造影効果に差がなかったが、胃上部、特に大彎から前壁では造影効果に差があった。横胃においては、体部では差がなかったが、胃上部と幽門部で造影効果に差があった。

平成 28 年度はバリウム量 120ml でも胃上部の造影効果を良好に保つ体位変換について検討する。

④ *H. pylori* 除菌後発見胃癌検出の特徴と急速進展予後不良例の解析（継続）

（研究本部がん対策研究室）

ピロリ感染胃炎に対する除菌の普及とともに、除菌後胃に発見される胃癌が増加している。除菌後発見胃癌は診断の難易度が増加すると一般的にいわれているが、診断困難となる因子の実態は明らかではない。また、従来のピロリ感染胃における内視鏡検査時の注意点との相違点も明らかではない。そこで、除菌後胃の内視鏡検査時の注意点、特に観察時の注目点を検討するのが本研究の目的である。

内視鏡検査履歴があった除菌後胃癌症例 28 病変を対象に、胃癌診断時とそれ以前の内視鏡所見を比較検討した結果、過去の内視鏡検査で病変指摘困難であった因子として、① 病変の領域性が乏しく周囲粘膜の胃炎による凹凸、斑状発赤や地図状発赤と類似した病変（71%）、② 除菌前

は胃炎に起因する付着粘液によって認識困難であった病変が除菌後明確になった病変（18%）、③ 1年間隔の内視鏡でも過去の検査で病変指摘困難な急速進展予後不良例 3 例（11%）を経験した。そこで、除菌後発見胃がんは領域性が乏しく周囲粘膜と類似した胃がんが多いが、一部の急速進展例を除き、発赤、凹凸、辺縁隆起所見に注意をしながら 1 年間隔で内視鏡を施行することで早期発見できることを、平成 27 年 10 月 10 日、JDDW2015 消化器病学会・消化器内視鏡学会合同シンポジウム 5 「*H.pylori* 除菌後の課題とその克服をめざして」にて発表した。

平成 28 年度は、ピロリ現感染胃がん症例と除菌後胃がん症例を対象とし、過去の内視鏡検査でがん検出困難であった因子の比較検討とともに、定期的に内視鏡を施行していても急速な進展を示す予後不良例の検討を行い、除菌後胃の内視鏡診断上の注意点に関して検討する。

⑤ 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討（新規）
（研究本部がん対策研究室）

平成 26、27 年度において、速やかで強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール：RPZ を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を検討してきた。平成 27 年 3 月よりプロトンポンプ阻害薬とは別な作用機序であるアッシュドポンプ競合型アッシュドブロッカー：P-CAB が除菌治療に用いられるようになった。今後は P-CAB を用いた除菌治療が主流になると考えられるため、その有用性の有無を検証するために、これまでの RPZ 群の成績と P-CAB 群との除菌効果の比較検討を行う。

除菌治療を希望する患者を登録して、一次、二次、三次除菌療法の除菌率、副作用の頻度と内容を調査する。酸分泌抑制剤には P-CAB を用いる。P-CAB 群は、① 1 次除菌 P-CAB40mg+AMPC1500mg+CAM400mg : 7 日間、② 1 次除菌 P-CAB40mg+AMPC1500mg+CAM800mg : 7 日間、③ 2 次除菌 P-CAB40mg+AMPC1500mg+MEZ500mg : 7 日間、④ 3 次除菌 P-CAB40mg+AMPC1500mg+STFX500mg : 7~14 日間の投与量で検討する。RPZ 群については、除菌効果判定の確認を継続する。PPI である RPZ 群と P-CAB 群との除菌成功率、副作用発生率を比較し、P-CAB の有用性の有無について検討する。

⑥ レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発（新規）

（研究本部画像病理研究室）

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとするさまざまな胃疾患の原因になる。そのため平成 25 年、健康保険によるピロリ胃炎の除菌治療が認可された。

本研究の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。研究は「千葉大学フロンティア医工学センター」と「富士フイルム」との共同研究で、役割分担を明確にする。当協会としては、千葉大学での解析に使用する内視鏡画像データとピロリ菌感染情報（*H. pylori* IgG 抗体価）を 100 人分収集する。千葉大学での白色光、Blue LASER Imaging、Linked Color Imaging における内視鏡画像データの解析を担当する。

平成 28 年度は、最初の段階として、解析のための画像診断のプログラムを作成するために、必要な情報を集め分析することに取り組む。

(2) 個別研究事業

個別研究事業は、前年度から継続して研究するものが 1 テーマ、今年度から新たに研究するものが 1 テーマの合計 2 テーマであり、それぞれの研究内容は、次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において有用性、独創性、実現性等を評価し、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

① 上部消化管内視鏡検査受診者におけるヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の実態と正確な把握に関する検討（継続）

研究責任者：山崎 琢士（診療科）

胃炎の内視鏡分類として「胃炎の京都分類」が提唱されているが、妥当性に関して十分な検証が行われていなく、かつ非常に複雑である。本研究は、現感染胃・除菌後胃（既感染胃）・未感染胃ごとに特徴的な内視鏡所見を整理し、簡便でかつ客観性のある分類を提案することを目的とする。

平成 27 年度は、ピロリ菌感染診断がなされ、性別・年齢を調整した現感染 50 例と現在非感染（未感染 25 例＋既感染 25 例）50 例を抽出し、胃炎に関する内視鏡所見を個別に比較検討したが、現感染を示唆する所見は、感度・特異度ともに高い内視鏡所見は現段階でないと考えられ、更なる解析を進める必要性があることが明らかとなった。

平成 28 年度は、引き続き前年の研究を継続し、ピロリ菌感染診断に有用な所見を見出すべく検討を続ける。まず、症例数を 2 倍にして、有意差検定を行う。また、簡便かつ容易な新たな胃炎指標を見出すべく、ピロリ菌感染診断に基づいた内視鏡所見の更なる解析を進める。

② ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（新規）

研究責任者：榊 信 廣（研究本部）

平成 24～27 年度までの検討で 5 年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、ピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

当協会では 5 年以上経過を観察した男性症例で検討した結果、ピロリ陽性患者より除菌後の患者の方が高頻度にバレット上皮が認められた。

平成 28 年度は当協会では内視鏡検査を受けた患者のなかから、ピロリ除菌治療を受けた時期が明確で、かつ除菌前後に 3 年以上経過を観察されていた症例についてバレット上皮を検討して、ピロリ除菌治療がバレット

上皮の進展に関与するか否かを検討する。

(3) 学術研究会事業

研究会の開催等については、これまで継続して行ってきたものを基本とする。開催、支援している研究会は、次のとおりである。

- ① 早期胃癌研究会＜年 9 回 第 3 水曜に開催（2 月・8 月・10 月休会）＞
東京都を中心に全国の大学、医療機関から提出される食道がん・胃がん・大腸がん並びに消化管の腫瘍性疾患の X 線・内視鏡画像（平均 5 症例）と病理所見について、厳しい討論が行われる。この研究会での高度かつ専門的な症例検討は、医学雑誌「胃と腸」に掲載され、早期消化管がんの診断法の進歩及び普及に貢献している。

出席者は毎回約 600 名、うち都内在住者は約 50%、主たる参加施設数は約 90 施設に及ぶ。当協会としては、主催者の一人として、理事長が運営委員会等の運営に関わるとともに、医師が運営委員として研究会の企画・運営に携わっている。

さらに、研究会においても当協会所属医師が毎回積極的に討論に参加し、その診断法の進歩に貢献するとともに、年数回は症例を提出するなど、討論においてリーダーシップを発揮している。

ア 早期胃癌研究会運営幹事

（平成 28 年 1 月 31 日現在）

【運営委員長】

小 山 恒 男 佐久医療センター内視鏡内科

【運営幹事】

（臨床） 9 名

小 山 恒 男 佐久医療センター内視鏡内科

小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科

斉 藤 裕 輔 市立旭川病院消化器病センター

清 水 誠 治 大阪鉄道病院消化器内科

田 中 信 治 広島大学内視鏡診療科

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院消化器内科・内視鏡センター

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座

消化器内科消化管分野

八 尾 建 史 福岡大学筑紫病院 消化器内科

山 野 泰 穂 秋田赤十字病院消化器病センター

（病理） 3 名

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学臨床検査医学講座

二 村 聡 福岡大学医学部病理学講座

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学

（五十音順）

イ 研究会における成果発表

＜雑誌「胃と腸」（発行元：医学書院）＞

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断等）が執筆、掲載される。

ウ 平成28年4月～平成29年3月 日程予定表

日	時	会	場
4月27日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
5月11日（水）	18:00～21:00	第55回「胃と腸」大会 東京（ニューピアホール）	
6月15日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
7月20日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
9月21日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
11月16日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
12月21日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
1月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
3月15日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場

② 大腸研究会 <偶数月の第4月曜に開催(10月休会)>

この研究会は、早期大腸がんの臨床画像診断と病理像について専門的な検討を行うことを目的としている。

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見に関する最先端的な検討、討論を行っている。

当協会所属医師は、この研究会への参画を通して、若手研究者の育成に貢献している。

【代表世話人】 (平成28年1月31日現在)

鶴田 修 久留米大学医学部消化器病センター

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科
分子・診断病理学

池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院病理部

大倉 康男 杏林大学医学部病理学教室

斎藤 彰一 がん研有明病院

高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院内科

津田 純郎 岡山済生会総合病院健診センター

富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター

小腸・大腸・肛門科学講座

長浜 隆司 千葉徳洲会病院消化器内科・内視鏡センター

西俣 嘉人 南風病院政記念消化器病研究所

渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科

臓器病態外科学講座腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院消化器内科

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 日程予定表

日	時	会 場
4 月 25 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階 南講堂
6 月 27 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階 南講堂
8 月 22 日 (月)	18:00～20:00	東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階 南講堂
12 月 12 日 (月)	18:00～20:00	東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階 南講堂
2 月 27 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階 南講堂

3 研修指導事業

都内及び国内各地の専門医、医療技術者、さらには海外の専門医に対し、早期消化器がんの診断技術取得を目的とした研修会、セミナーなどを実施する。

(1) 国内医師に対する研修

当協会は、消化管がんの診断に関してX線・内視鏡診断を含めた総合的な研修が行える数少ない施設である。消化器内科・外科の医師を対象として、内視鏡診断に関する専門研修医を受け入れ、専門研修を実施する。

なお、当協会は、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器がん検診学会から内視鏡・X線に関する指導施設として認定されている。

(2) 放射線技師に対する研修

当協会は、医療機関で胃X線撮影を担当する診療放射線技師を対象とする実技研修が行える施設であり、研修を希望する診療放射線技師を積極的に受け入れる。

研修においては、日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診の専門技師が指導にあたる。

(3) 平成消化器懇話会の開催

急速に進歩している消化管疾患の診断及び治療に関する最新知識を習得する場として、地域の医師等を対象に「平成消化器懇話会」を開催する。

平成28年度は以下のとおりであり、7月、10月及び平成29年2月に開催する予定である。

・胃癌の外科治療について

がん研有明病院副院長・消化器センター長 佐野 武 先生

・除菌後胃癌の内視鏡診断について

新潟大学地域教育医療センター魚沼基幹病院消化器内科特任教授
小林 正明 先生

・炎症性腸疾患の内視鏡診断と治療の新知見について

東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科講師 猿田 雅之 先生

4 普及啓発事業

消化管がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性をはじめとして、がん対策の基礎知識及び生活習慣病も含む幅広い健康管理法についての啓発活動を展開している。

具体的には、周辺医師会・病院等と連携のうえ講演会等を開催し、上部・下部内視鏡、超音波、診断X線（胃透視）の撮影技術及び読影・診断技術の向上に努めている。また、企業の健康管理担当者等を対象にセミナーを開催するなど、企業従業員の健康管理に必要な情報を提供し、従業員健康管理を支援している。

さらに、検診受診者等を対象に検診に関する身近なテーマを取り上げ解説した「ニュースレター」を発行し、健康増進の普及啓発に努めている。

(1) 保健指導者セミナー（「健康開発りぼーと」の発行）

保健指導者セミナーは、疾病及び健康診断の有用性を啓発することを目的としている。

対象は、健康保険組合及び各企業の健康管理室等の健康管理担当者、産業医、日本橋医師会並びに早胃検倶楽部会員等であり、年1回（10月又は11月）開催する。

セミナー終了後、保健指導者セミナーの講演記録を『健康開発りぼーと』として小冊子にまとめ、協会の検診受診者等に配布する。

平成28年度は、「乳がん検診」を取りあげる予定である。

(2) ニュースレターの発行

協会クリニックの患者や検診受診者を対象として、がんや生活習慣病、検査方法等をわかりやすく解説した「ニュースレター」を隔月で発行する。

今年度は、次のテーマを予定している。

5月発行	MR I 検査
7月発行	大腸内視鏡前処置
9月発行	骨粗鬆症
11月発行	腸内細菌と病気の関連
1月発行	放射線治療
3月発行	良い脂肪と悪い脂肪

5 検診・診療事業

(1) 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区住民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行っている。

健康診断としては、人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診を取り扱っている。今年度は、約 13,000 人の検診を予定している。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診するという巡回検診にも対応している。今年度は、約 7,000 人の検診を予定している。

(2) 診療事業

附属茅場町クリニックは、地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行っている。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 週及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器内科

呼吸器専門外来、肝臓専門外来、ピロリ外来

来院見込数（年間延べ人数）： 11,000 人

(3) 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行っている。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

6 法人運営

(1) 評議員会・理事会の開催予定

平成 28 年	5 月下旬	理事会（決算）
平成 28 年	6 月中旬	評議員会（決算）
平成 28 年	6 月中旬	理事会（理事長等の選定）
平成 28 年	11 月下旬	理事会（業務執行状況報告）
平成 29 年	3 月下旬	理事会（予算）

(2) 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大、がん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、画像保管システムや内視鏡装置の更新など研究用機器を整備する。

(3) 資金計画

機器装置、設備等の更新をはじめ事業に必要な資金は、自己資金のほか寄附金及び賛助会費等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努める。

(4) 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の運営に関する法令、規程等を職員に周知するとともに、その遵守を徹底し、職員のコンプライアンス意識を高める。

Ⅱ 平成 28 年度収支予算書

平成28年度 収支予算書

(正味財産増減予算書)

平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで

(単位:千円)

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成28年度予算 (A)	平成27年度予算 (B)	増 減 (A-B)
<一般正味財産増減の部>						
I 経常増減の部						
1. 経常収益						
① 基本財産運用益						
基本財産受取利息	1,305	0	0	1,305	1,309	△ 4
② 特定資産運用益						
特定資産受取利息	244	0	0	244	375	△ 131
特定資産受取配当金	167	0	0	167	0	167
③ 受取会費						
賛助会員受取会費	4,173	0	0	4,173	6,693	△ 2,520
④ 事業収益						
診断診療収益	565,978	58,386	0	624,364	612,680	11,684
⑤ 受取寄附金						
一般受取寄附金	13,910	0	0	13,910	16,370	△ 2,460
⑥ 雑収益						
受取利息	20	0	0	20	20	0
雑収益	1,313	0	0	1,313	1,313	0
経常収益計	587,110	58,386	0	645,496	638,760	6,736
2. 経常費用						
① 事業費						
役員報酬	11,040	0	0	11,040	11,040	0
給料手当等	272,828	0	0	272,828	282,040	△ 9,212
役員退職慰労引当金繰入額	920	0	0	920	1,040	△ 120
退職給付費用	5,970	0	0	5,970	7,088	△ 1,118
福利厚生費	30,527	0	0	30,527	31,857	△ 1,330
旅費交通費	1,768	0	0	1,768	1,951	△ 183
通信運搬費	5,153	0	0	5,153	5,624	△ 471
医療材料費	38,629	0	0	38,629	35,794	2,835
消耗品費	14,793	0	0	14,793	14,000	793
修繕費	20,590	0	0	20,590	21,748	△ 1,158
図書費	1,022	0	0	1,022	1,322	△ 300
印刷製本費	3,414	0	0	3,414	4,473	△ 1,059
光熱水料費	4,288	0	0	4,288	4,288	0
賃借料	83,233	0	0	83,233	83,233	0
委託費	89,277	0	0	89,277	81,720	7,557
リース費	126	0	0	126	162	△ 36
会議費	169	0	0	169	569	△ 400
保険料	410	0	0	410	470	△ 60
支払負担金	807	0	0	807	807	0
支払手数料	1,630	0	0	1,630	1,713	△ 83
交際費	100	0	0	100	100	0
広告費	452	0	0	452	452	0
減価償却費	47,176	0	0	47,176	42,756	4,420
租税公課	6,213	0	0	6,213	6,621	△ 408
雑費	1,492	0	0	1,492	1,592	△ 100

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成28年度予算 (A)	平成27年度予算 (B)	増 減 (A-B)
② 管 理 費						
役 員 報 酬	0	24,178	0	24,178	24,178	0
給 料 手 当 等	0	18,922	0	18,922	15,330	3,592
役員退職慰労引当金繰入額	0	1,980	0	1,980	2,360	△ 380
退 職 給 付 費 用	0	193	0	193	195	△ 2
福 利 厚 生 費	0	5,186	0	5,186	5,884	△ 698
旅 費 交 通 費	0	360	0	360	360	0
通 信 運 搬 費	0	100	0	100	100	0
消 耗 品 費	0	100	0	100	100	0
修 繕 費	0	210	0	210	0	210
図 書 費	0	50	0	50	50	0
印 刷 製 本 費	0	170	0	170	170	0
光 熱 水 料 費	0	190	0	190	190	0
賃 借 料 費	0	1,995	0	1,995	1,995	0
委 託 費	0	149	0	149	149	0
会 議 費	0	500	0	500	400	100
保 険 料	0	1,329	0	1,329	1,329	0
支 払 負 担 金	0	102	0	102	102	0
支 払 寄 附 金	0	50	0	50	50	0
支 払 手 数 料	0	10	0	10	10	0
交 際 費	0	100	0	100	100	0
減 価 償 却 費	0	692	0	692	558	134
顧 問 料	0	1,710	0	1,710	1,710	0
雑 費	0	110	0	110	110	0
経常費用計	642,027	58,386	0	700,413	697,890	2,523
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 54,917	0	0	△ 54,917	△ 59,130	4,213
3. 基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
4. 特定財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 54,917	0	0	△ 54,917	△ 59,130	4,213
II 経常外増減の部						
5. 経常外収益	0	0	0	0	0	0
6. 経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 54,917	0	0	△ 54,917	△ 59,130	4,213
一般正味財産期首残高	429,875	0	0	429,875	489,005	△ 59,130
一般正味財産期末残高	374,958	0	0	374,958	429,875	△ 54,917
< 指定正味財産増減の部 >						
7. 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0
正 味 財 産 期 末 残 高	374,958	0	0	374,958	429,875	△ 54,917

※平成27年度予算のうち一般正味財産期首残高は、平成26年度正味財産増減計算書の一般正味財産期末残高489,005千円を計上している。

平成28年 4月 1日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番12号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL : <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail : mail@soiken.or.jp